



学校だより

大綱

ふれあい 輝く大綱の子

横浜市立大綱小学校
電話 542-0027
FAX 541-3646

7月号

感動をみんなで

校長 横山 喜利穂

今、FIFA ワールドカップに世界中が熱狂しています。先日の1次リーグ、日本対スウェーデン戦の視聴については、学校でのパブリックビューイングとまではできませんでしたが、様々な条件がクリアされ、教室で後半戦のみ視聴しました。友達と一緒に代表チームを応援したことは、子ども達にとっては、思い出に残る貴重な体験であったと思います。



今回の視聴は、1. 日本代表を応援する気持ちを通して、仲間と感動を共有する 2. 世界への関心を高める 3. スポーツの価値に触れる 4. 社会的な出来事を共有する ことをねらいとしました。なんといっても、横浜出身の選手が多くいるということから、子どもたちが代表選手を身近に感じ、一つの目標に向かって挑戦する姿を見て、自分の夢や目標に向かう大切さを考える機会になるのではと考えました。もちろん、サッカーを詳しく知らなかったり、サッカーにあまり興味がなかったりする子どももいたと思います。それでも、学級や学校全体で応援することで、一体感を味わうことができ、所属感や連帯感を高めることができる教育的な価値があると、教職員で確認をしました。

当日は、多くの子どもがユニフォームを着て登校していました。中には「先生、本当に見れるの?」と確かめる子どももいました。朝会では、大綱小学校みんなで応援することの意味や応援のマナーについて話し、横浜出身の選手を紹介しました。予定されていた PTA 運営委員会も時間をずらしていただき、いよいよ、後半戦キックオフ。点が入った後半 11 分には、歓喜の悲鳴が学校中に響き渡りました。「もう 1 点! もう 1 点!」と 1 年生がみんなで大合唱。同点に追いつかれたときにも悲鳴は響きましたが、今までよりも応援の声は大きくなっていました。勝敗にかかわらず、選手たちの諦めない姿勢、フェアプレイ精神、試合後の互いを称え合う姿(リスペクト)を一体感や仲間とのつながりとともに肌で感じることはできたのではないのでしょうか。

当日は、多くの子どもがユニフォームを着て登校していました。中には「先生、本当に見れるの?」と確かめる子どももいました。朝会では、大綱小学校みんなで応援することの意味や応援のマナーについて話し、横浜出身の選手を紹介しました。予定されていた PTA 運営委員会も時間をずらしていただき、いよいよ、後半戦キックオフ。点が入った後半 11 分には、歓喜の悲鳴が学校中に響き渡りました。「もう 1 点! もう 1 点!」と 1 年生がみんなで大合唱。同点に追いつかれたときにも悲鳴は響きましたが、今までよりも応援の声は大きくなっていました。勝敗にかかわらず、選手たちの諦めない姿勢、フェアプレイ精神、試合後の互いを称え合う姿(リスペクト)を一体感や仲間とのつながりとともに肌で感じることはできたのではないのでしょうか。

森保ジャパンから、学校は多くのことを学ぶことができました。職員室で「チーム大綱」について、たくさん語り合いたいと思うとともに、応援する素晴らしさも実感した一時でした。